

ギリシャに政局の秋

発表日：2014年10月6日(月)

～総選挙と政権交代の可能性が高まる～

第一生命経済研究所 経済調査部
主席エコノミスト 田中 理
03-5221-4527

- ◇ 緊縮策への国民の反発や不動産取得税の過剰請求問題で支持率低下に悩むギリシャの連立政権は、近く内閣信任投票の実施を予定する。議会の過半数を確保する連立政権の信任は確実視されているが、支持率回復や政権安定につながるかは予断を許さない。
- ◇ 年内にEUからの財政支援の卒業を予定するギリシャでは、IMF支援も前倒しで卒業し、追加の緊縮要求を回避することを目指している。だが、ECBは新たに開始するABSとカバードボンドの買い取りプログラムでギリシャに特例を認める代わりに、支援プログラムの継続を要求している。
- ◇ 連立政権は次期大統領の選出に必要な議席を確保しておらず、来年初にも議会の解散・総選挙が行われる可能性がある。連立政権としては内閣信任投票で弾みを付け、大統領選出手続きや選挙制度改革に着手し、政権基盤の安定を図りたいが、野党勢の反発は避けられない。

■ 内閣改造や信任投票の実施も連立政権の求心力は低下

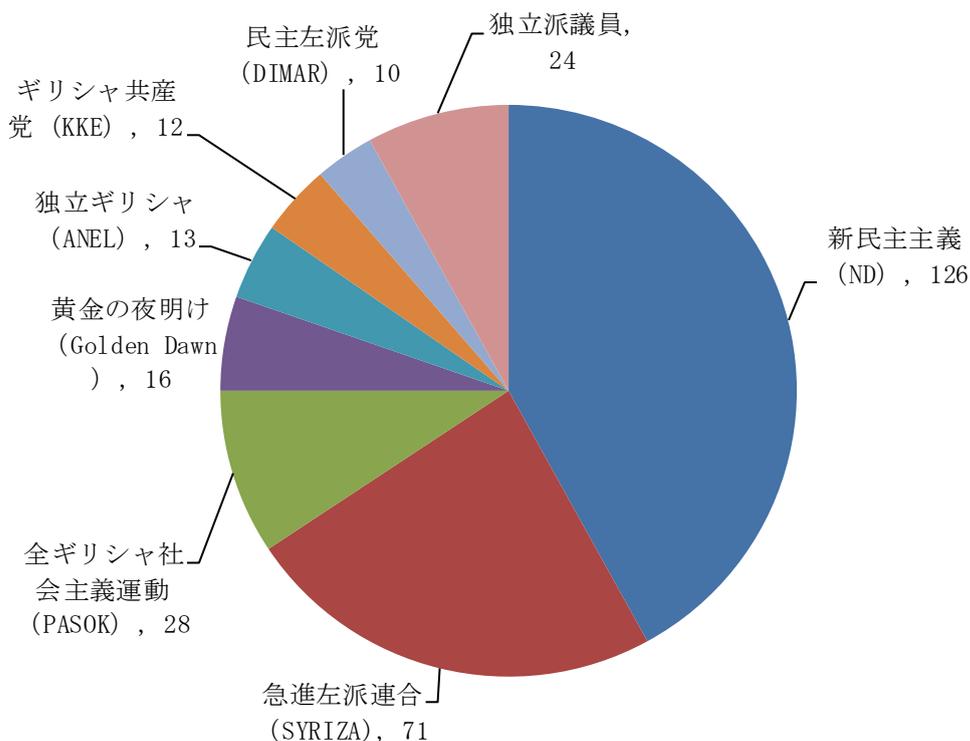
ギリシャの連立政権を率いる「新民主主義（ND）」のサマラス首相と「全ギリシャ社会主義運動（PASOK）」のベニゼロス副首相は休会明けの6日にも、議会に内閣信任投票の実施を要求する方針だ。3日間の討議の後、10日に投票が行われる可能性が高い。連立政権は現在、議会（定数300）の過半数を僅かに上回る154議席を確保している（図表1）。暴力事件に関与した疑いで逮捕者が出た極右政党「黄金の夜明け」の一部議員が投票を行わないこともあり、与党内から複数の造反者が現れない限り、連立政権は信任される可能性が高い。

5月末の欧州議会選挙後に連立政権は内閣改造を行い、国民から人気の高い政治家が閣僚に入ったが、政権の求心力回復には至っていない。新たに導入された不動産取得税の計算に誤りがあり、多くの納税者に過剰請求をしていたことが発覚し、国民の怒りを買っている。6日には減税措置などを盛り込んだ2015年度予算案も議会に提出される見込みで、行き過ぎた財政緊縮の見直しを進め、与党の支持率回復を目指している。年内にEUからの財政支援の卒業を目指すギリシャでは、9月末からトロイカのミッションがアテネ入りしている。11月下旬から12月初旬の審査終了を目指し、ギリシャ政府との間で協議が開始されている。構造改革分野での積み残し案件の改革履行を求められる可能性が高いギリシャ政府としては、協議の本格化を前に内閣信任投票で関連法案の議会審議に弾みをつけたい。

ギリシャの支援プログラムは、EUからの財政支援が年内の終了を予定する一方で、IMFからの財政支援は2016年1-3月期まで続く計画となっている。ギリシャ政府はIMF支援も前倒しで卒業し、国民の反

発が予想される追加の緊縮要求を回避することを目指している。だが、2日のECB理事会で公表されたABSとカバードボンドの購入プログラムでは、格付け要件を満たしていないギリシャとキプロスの債券購入の特例が認められたものの、購入条件の1つとして支援プログラムの継続をECBから求められた。支援卒業の妨げになる恐れがある。

(図表1) ギリシャの政党別議会勢力



注：定数300、NDとPASOKの連立政権は154議席で過半数を僅かに上回る
 出所：ギリシャ議会資料より第一生命経済研究所が作成

■ 次期大統領の選出を巡って政局流動化の恐れ

ギリシャの政局を巡っては、来年3月に現職のパプリアス大統領の任期が切れるのに伴い、任期満了の1ヶ月前までに次期大統領の選出が必要になる。連立政権は大統領選出に必要な180議席を確保しておらず（1回目・2回目の投票で200議席以上、3回目の投票で180議席以上の賛成票が必要）、3回目の投票までに選出できなければ、憲法の定めにより、議会は自動的に解散され、前倒して総選挙が行われる（新しい議会で再度新大統領を選出）。各種の世論調査では、不動産取得税の過剰請求問題の影響もあり、野党第1党の「急進左派連合（S y r i z a）」が与党第1党のNDに対するリードを広げている（図表2）。このまま総選挙が行われれば、反緊縮・反体制色の強いS y r i z aが第1党になり、政権交代や政局不安の可能性が高まる。

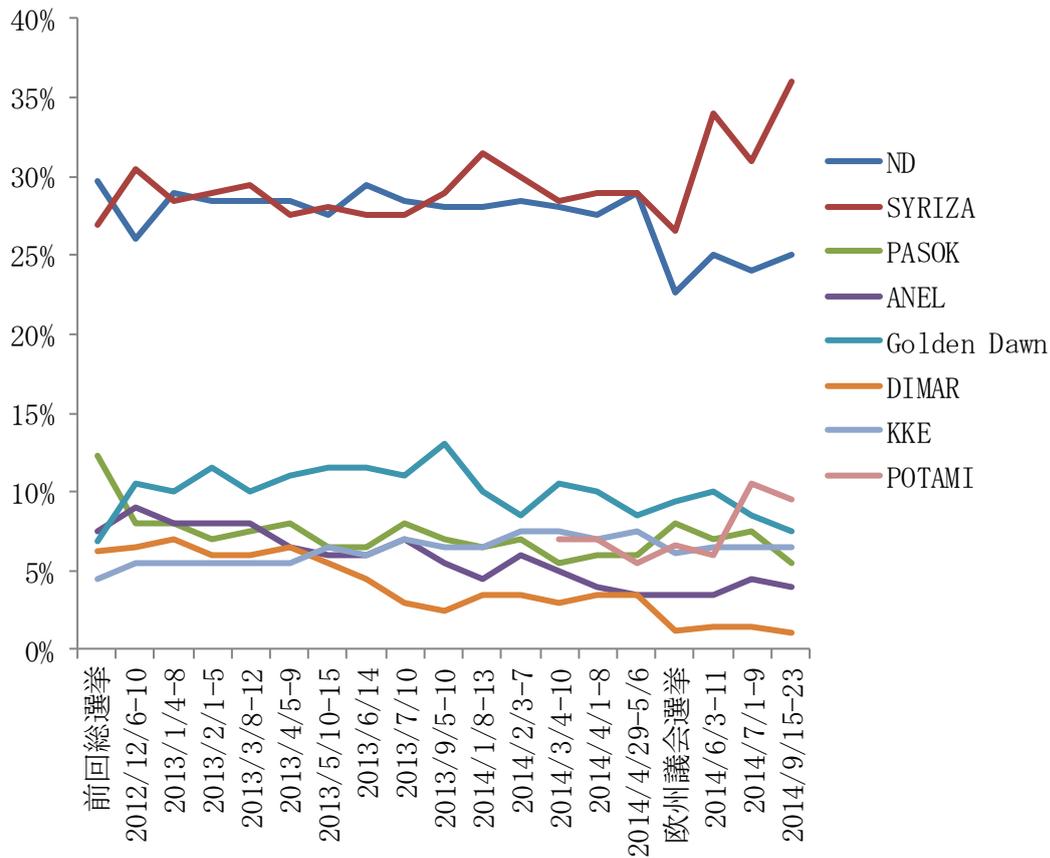
連立政権は次期大統領候補の人選を進めているが、180議席の獲得が可能な候補の選定は難航している。かつてNDとPASOKの連立政権に加わっていた穏健左派の「民主左派党（D I M A R）」のコウベリス党首であれば、D I M A Rが保有する10議席を取り込み、新大統領の選出が容易になるとの見方も浮上している。だが、D I M A R内にはS y r i z aとの連携を模索する勢力がおり、党内融和を重視するコ

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

ウベリス党首は出馬に難色を示しているとの報道も一部にある。連立与党は民間人も含めて人選を進めているが、今のところ議会の多数派を構成できる候補の目処は立っていない模様だ。

連立政権としては、信任投票で議会の結束を強化し、野党勢による早期の解散・総選挙の動きを牽制する狙いがある。さらに、トロイカのミッション終了後にも、大統領の選出手続きや議会の選挙制度改革に着手し、政権基盤の安定を図る方針だ。連立政権が思い描くのは、議会の過半数以上の賛成が必要な大統領選出手続きを改め、直接投票による公選制とすることや、議会選挙の最多票を獲得した政党に50のボーナス議席を追加で割り当てる現行の選挙制度改革することだ。実現すれば政局安定につながるが、Syrizaを中心に猛反発が予定され、審議の過程で様々な政治的な動きが出てくる可能性がある。

(図表2) ギリシャの政党別支持率調査の推移



出所：電子版kathimerini (Public Issue調査) より第一生命経済研究所が作成

以上